design innovation consortium

Program Guide

デザイン
イノベーション
コンソーシアム

2018年5月発行

■事務局
京都リサーチパーク株式会社 イノベーションデザイン部内
〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134
TEL075-315-8522 / FAX075-315-9079
info@designinnovation.jp http://designinnovation.jp

DESIGN INNOVATION

京大デザイン学を通して"VUCA"の時代を生き抜くための企画力・発想力を鍛える

予測不可能な時代（VUCA*）ともいわれる現代において、企業が課題の解決策を創造的に生み出し、革新的なビジネスを創出するために、デザイン思考やユーザ中心といったデザイン手法が注目され、ビジネスの現場にも取り入れられつつあります。

デザインイノベーションコンソーシアムでは、京都大学デザインスクールが提唱する「デザイン学」を核として、デザインに関わる知識やスキルを身につけるための社会人向け人材育成プログラムを提供しています。それは次のような特長を持つ、まさにここでしか学べないプログラムです。

1. デザイン学：さまざまな専門分野に根差す各種のデザイン理論・手法を核として、京都大学デザインスクールで教育されている「デザイン学」に基づいている。
2. 異業種・異分野：産官学の多様な業種・専門分野の人材や知見が集まる場を形成している。
3. 京都：1200年を超える歴史と文化を育んできた京都という街（フィールド）を活動拠点としている。

プログラムの参加者は、京大デザイン学のさまざまなデザイン理論・手法を習得したり、異業種の人材と知が交わる場で、価値を共創しながらスキルを磨いたりすることができます。

デザインの基礎を学びたい方から、実際のビジネスでの実践をお考えの方まで、さまざまなステージでご活用いただけるコンソーシアムのプログラムをご紹介します。

*VUCA: Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）

ニーズに合わせて組み合わせ可能なプログラム体系

コンソーシアムのプログラムは、座学などにより基礎的な素養を身につけるものと、習得した知識をワークショップなどの場で実践するものとに分けられます。各プログラムは単体で受講可能で、皆様のニーズに合わせて受講いただけます。社内の既存の研修メニューだけではカバーできないプログラムを中心に受講いただくことで、効率的なスキルアップが可能です。

このほか、各社のニーズに合わせてカスタマイズしたプログラムを社内で実施する「社内教育プログラム」や、社内の議論だけでは解決できない課題に対して京都大学のさまざまな分野の専門家が解決策をデザインする「オープンイノベーション」なども実施しています。

受講例1

社内の業務にこれからデザイン思考を取り入れたいとお考えの方には、デザイン思考などを中心に、まずは実践的なプログラムに参加してみることをお勧めします。

サマーデザインスクール
▼
フィールド訪問
▼
デザインセミナー

受講例2

すでにデザインの素養はあるという方には、デザインセミナーを中心に、デザイン対象領域に固有のデザイン理論や手法を学ぶことをお勧めします。単なる思い付きだけによらない、深い思考に基づくアイデアの創出を目指します。

デザインレクチャー［サービスのデザイン］
▼
フィールド訪問［老舗］
▼
デザインセミナー

受講例3

座学でじっくり学びたいという方には、デザインレクチャーを中心に受講することをお勧めします。さまざまな専門分野に根差すデザイン理論や手法を俯瞰的に学びます。

デザインレクチャー［人工物のデザイン］
▼
デザインレクチャー［サービスのデザイン］
▼
デザインレクチャー［表現と認知］

受講例4

異業種とのコラボレーションを経験したい、協業のきっかけが欲しいという方には、プロフェッショナル・デザインキャンプを中心に受講することをお勧めします。多様な業種の企業が集まる本コンソーシアムならではの受講プランです。

デザインフォーラム
▼
ファシリテーション研修（既存の社内研修）
▼
プロフェッショナル・デザインキャンプ

プログラム体系と年間スケジュール（イメージ）

※❶❷❸❹は受講例

※テーマ、開催月は一例です。

				種別期間	受講料	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
知識	Design Forum デザインフォーラム（ビジネスデザイン）	▶ P.07	産業界で活躍中または実績のある企業人を招き、ビジネス現場の実態や課題、その突破口、戦略、人材論などアクチュアルな講義をいただくセミナー	講演 2時間	無料（会員限定）			未定 ❹			未定			未定			未定
知識	Design Lecture デザインレクチャー	▶ P.12	京大デザインスクールで実際に行われている講義を中心に、企業向けに再編した、各分野のデザイン理論・手法を説く集中シリーズ	講義 3時間	無料（非会員有料）		人工物のデザイン ❸	サービスのデザイン ❷❸	表現と認知 ❸		まちづくり		未定	未定	未定		未定
実践	Design Seminar デザインセミナー	▶ P.03	デザイン対象領域を説く講義と、デザイン思考を実践するワークショップを組み合わせた、3日間集中型のセミナー	WS 3日間	有料								未定 ❶❷				
実践	Professional Design Camp プロフェッショナル・デザインキャンプ	▶ P.05	異業界を横断するメンバーがデザイン理論・手法を用いて社会課題の解決を目指す3日間のイノベーションプログラム	WS 3日間	有料					未定 ❹							
実践	Summer Design School サマーデザインスクール	▶ P.09	京大デザインスクールの問題発見型学習／問題解決型学習を学外の人に広く開放し、社会の実問題に挑む3日間の集中型ワークショップ	WS 3日間	有料						未定 ❶						
実践	Site Visit フィールド訪問	▶ P.12	会員企業や古くから息づいている老舗など、ソリューション開発やデザイン提供を行っているフィールドを訪問し、「デザインの本質」を学ぶ体験型プログラム	3時間	無料（会員限定）				老舗 ❷			商店街 ❶			企業		京大施設
カスタマイズ	In-House Training 社内教育プログラム	▶ P.11	会員企業のニーズに合わせて、京大デザインスクールの教員を中心とする講師陣が企業内で研修を実施する、カスタマイズ型プログラム	研修 1～2日	有料	随時開催											
カスタマイズ	Open Innovation オープンイノベーション	▶ P.11	京大をはじめとするさまざまな分野の高度な専門家の知のネットワークを活用し、会員企業が抱える課題に対して、解決策をデザインする		有料	随時開催											

プログラム開催報告

Design Seminar

Series IV
ビッグデータビジネスデザイン
データ分析の基礎から社内利用のコツまで

20世紀後半からITやセンサーの技術が飛躍的に発展し、
大量のデータが集まるようになりました。
データ利活用におけるPDCAサイクルを社内で構築するための手法を学習しました。

シリーズ4回目のテーマは「ビッグデータビジネスデザイン」です。従来活用されていなかったビッグデータを解析することで新たなビジネスチャンスが生まれる一方、データの価値を再発見するプロセスを身につけることが求められるなど、ビッグデータへの注目がますます高まっています。そこで、情報・システム研究機構長である北川源四郎氏、独立行政法人統計センター統計情報・技術部共同利用システム課の西村正貴氏、そしてTableau Japanの並木正之氏らを講師に迎え、日間のセミナーを実施しました。

参加者はグループワークを通じて、データ利活用におけるPDCA（Plan Do Check Action）サイクルを社内に構築するための手法、つまりデータのプレサンプリングの方法とレポーティング技術、可視化方法、その解釈と活用にくわえてデザインメソッドを用いた経営企画の立案方法を学ぶとともに、日本の政府統計「e-Stat」とデータ解析アプリケーションを用いてビッグデータ分析にも取り組みました。

最終日には各グループによるプレゼンテーションが行われ、ビッグデータから導き出したユニークなビジネスプランが発表されました。参加者からは「ビッグデータを取り巻く環境と実践的な分析を通じて、より理解が深まった」「データの可視化という重要性を感じた。明日の業務から意識したい」「ワークショップを通じて分析手法を学ぶことができて良かった」「マネジメントの立場でしか見ていなかったので、実体験できて良かった」などといった声が集まりました。

2016年5月19日（木）～21日（土）

Design seminars Series III
アーバンデザイン

「生命と暮らしを育むスマートコミュニティ」をテーマに、持続可能社会のための都市デザインについて議論を深めました。

かつてはエネルギーや環境問題といったハード面を中心に考えられた都市づくりが、現在はライフスタイルやコミュニティ運営を含むソフト面からの視点重視にシフトしています。とくに、2050年までに地球の人口の70%が都市に住み、エネルギーの75%が都市で消費されるという予測があることから、アーバンデザインは地球規模の問題として取り組む必要があると考えられるようになっています。

このプログラムでは、①アーバンデザインの特性を理解し、そのデザイン原理を探求するとともに、②生命や暮らしの視点からスマートコミュニティのブレークスルーを図り、③デザインイノベーションのためのプロセスや手法および多主体による対話によるデザインの方法論を学ぶことを特徴としており、3日間にわたって専門家による講演やワークショップが行われました。

ワークショップでは、「工場移転後の400m×400mの空き地」という架空の敷地に、“生命と暮らしを育む”視点から、未来のスマートコミュニティのデザインを検討。最終日には、各チームともに模型を交えてのプレゼンテーションが行われました。

2015.9.30 -10.2

Design seminars Series II
ヘルスケアデザイン

団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えた医療政策と先端医療ICT戦略について、予防、医療、介護の視点から学びました。

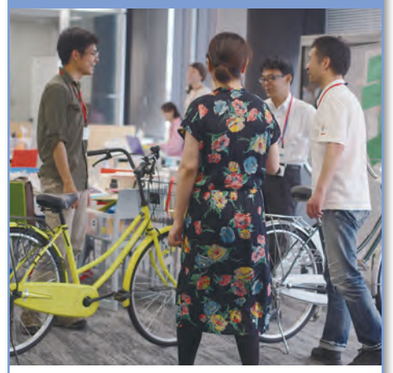
現代日本では、少子高齢化による医療費の増加や介護人材の不足など、医療を取り巻くさまざまな問題が日々取り上げられています。そのなかで、団塊世代が後期高齢者となる2025年の日本の医療は、どのような姿であるべきでしょうか。

このプログラムでは、日本型の医療制度やその背景にある死生観、世界レベルで行われる新薬の研究開発の現況、地域医療と介護の現場の実態を理解するとともに、IT先進国として知られるエストニアのインターネットサービスX-Roadの仕組みとそれを支える法整備について知見を得ました。そこから、10年後の日本の医療について予測を行い、最終的に「2025年の日本におけるヘルスケアサービスの将来シナリオ」のプレゼンテーションを行い、将来のビジネスチャンスの可能性について議論を交わしました。

このプログラムには、常葉大学造形学部からグラフィックレコーディングを担当する学生たちも参加。講演や議論の流れをリアルタイムで模造紙に描き込んで視覚化していく“リアルタイムドキュメンテーション”の手法を取り入れた進行で、立体的に議論を俯瞰する役割を担ってもらったのも特徴的でした。

2015.2.4 - 6

Design seminars Series I
サービスデザイン



サービスデザインとは何でしょうか？　製造業が付加価値を高めるなか、サービスデザインの役割について議論しました。

いま、世界中の企業がサービスデザインに注目しています。ここでいうサービスとは、顧客との接点を指し、サービス業だけではなく、製造業でも重要な事業的側面と捉えています。

これは、従来の「プロダクトをデザインする」ことから、「顧客の体験をトータルにデザインする」ことが求められていることに起因します。プロダクトを売り切ることで利益を上げることの限界が見え、顧客価値の源泉がひとつのプロダクトではなく全体的な体験に移るなかで、サービスの観点を避けて通ることができなくなっているからです。

このプログラムでは、サービスについての理論、サービスを理解するための体験に根ざした観察手法、サービスデザインの方法論やツール、サービスをプロトタイピングし検証する方法、そして事業や商品をすべてサービスと捉える“サービス・ドミナント・ロジック”に関する講義を受け、企業と顧客が一緒になって価値を作り出す「価値共創」が重要であることなどを学びました。

最終日には、体験談や物語の形式によって聞き手に強く興味を引く手法である“ストーリーテリング形式”でプレゼンテーションも行いました。

2014.9.3 - 5

Professional Design Camp

004+
「ロボット共生社会を予想する」
ー京大デザインスクール式デザイン思考の実践ー

デザインイノベーションコンソーシアムでは、これまで京大デザインスクール式のデザイン思考を価値創造プロセスとして実践してきました。4回目となるプロフェッショナル・デザイン・キャンプでは、「ロボット共生社会を予想する」をテーマに、教育心理学と機械工学という異なる視点から知見を得、多様な業界の参加者の意見を交換しあうメソッドを3日間にわたって実施し、遠くない「ロボット共生社会」に向けた新しいビジネスコンセプト作りを行いました。

後継者不足や労働人口の急激な減少、個人消費の伸び悩みなどの問題を抱えている現代日本においてロボットの導入は不可欠とされていますが、ロボットの外見が協働作業へのモチベーションに少なからず影響を与えています。

また、アクシデントなどが起こった際に、ロボット（AI）が瞬時にどのような判断をするべきか、倫理体系を確立させる必要があることなど、暮らしのなかで人とロボットがどのように折り合いをつけていくかという問題も残っています。

それらの課題を踏まえ、自分が仕事を通じて生み出したい未来のロボット共生社会はどんな姿なのかを考え、最終的に①未来の兆し、②プロトタイプ、③コンセプトを作成し、プレゼンテーションを行いました。

このプログラムでは、「場とつながりラボhome' s vi」代表理事の嘉村賢州氏をファシリテーターに迎え、コミュニティビルディングやブレインストーミングを取り入れながら、「ロボットと共生する社会」についての活発な議論を行いました。参加者が互いにアイデアを出し合い、そこから新しい気づきや発見、出会いを通じて、自分の価値観を広げることが、イノベーションには重要だということを経験した時間でもありました。

プロフェッショナル・デザインキャンプは

- 参加者同士の価値協創を通じて、未来に求められる新たな価値を生み出し、そのプロセスを学びあう場です
- 異業種とのコラボレーションによる新規事業の探索と推進に関心がある方を対象としたプログラムです
- 様々な企業から集う参加者でチームを組み、共通のテーマのもとで、3日間で新たな価値の創出を試みていただきます
- 価値の創出だけでなく、異業種・企業間のコラボレーションのファーストステップとしていただけることを目指しています
- 参加者との議論で得られる気付きや、テーマに対する深い理解を得られます
- 協創した新たな価値は、今後の研究開発や事業推進に自由に活用していただけます

2018年1月23日（火）～25日（木）

Professional Design Camp 003
「都市とAI」～ビジネスイノベーションで圧倒的にレジリエントな都市を実現する～

「デザインキャンプ+」と位置付けられたこのプログラムは、価値の創出とそのプロセスを学ぶだけでなく、異業種の企業間でのコラボレーションのファーストステップとしてもらうことを意識したキャンプとなりました。

世界的に進む都市への人口集中に伴うさまざまなリスク、そのなかでも特に都市化最大の弱点といわれる地震、水害、疫病、そしてサイバーテロなどを含む災害への対策を課題として、東日本大震災をはじめとするさまざまな災害を克服してきた企業の力で、圧倒的にレジリエントな都市を実現するアイデアの創出が試みられました。

3日間のキャンプでは、①困りごと理解フェーズ、②知識補強フェーズ、③深める思考フェーズ、④アイデア創発フェーズ、⑤プロトタイプフェーズという5つのデザインプロセスを行き来しながらテーマに関する理解を深めました。

特に今回は自ら「問い」を設定することに主眼をおき、各々がデザインプロセスから導きだした“追求してみたい問い”から分科会を作り、最後に各分科会で問いを基にしたビジネスプランを作成し、プレゼンテーションを行いました。さまざまな業種から集まった参加者がそれぞれの知恵を出し合う充実した3日間となりました。

2017.3.13 - 15

Professional Design Camp 002
作る人のHappy、食べる人のHappy ー農と食の未来ー

2016.1.22 - 24

人間の生活を支えるうえで欠かせない「農」や「食」。しかし、現代社会ではフードロス問題や生産現場での後継者問題など「農」と「食」はさまざまな課題を抱えています。そこで「作る人のHappy, 食べる人のHappy」と題し、作る人、食べる人双方のHappyをデザインすることを目的として、未来の「食」を取り巻くシーンについて議論を深めました。

レクチャーでは、現代の日本では、持続可能な食料供給の仕組みをいかに可能にするかが問われていることや、農作業の負担を減らすために機械化やICTが果たす役割などについての紹介があり、これらを解決することで日本の農業を維持し、食料を作る人がハッピーになることができるというお話がありました。

またアフリカをはじめとする地域での人口増加による食料不足に、日本が築いてきた農業技術を活かして貢献していくことができるというお話もありました。

ワークショップでは、今後10年から15年ほどの間に「農」や「食」にどんな変化が起こるかといった仮説を立てる「未来イシューの策定」作業を行うとともに、今後の社会変化仮説を加えて未来シナリオを描き発表を行いました。

Professional Design Camp 001
2025年徒歩5分圏の空間の暮らし方を考える

都会への一極集中から地方における新たな街づくりへの転換の重要性が叫ばれています。魅力的な街とはいったいどんなものなのでしょうか？　街を取り巻く社会や環境のあり方には便利・快適さや安全性などさまざまなキーワードが考えられるなか、ICTを活用したスマートタウンやコンパクトシティなどの新しい概念も提案されています。

そこで、このプログラムでは、「2025年 徒歩5分圏内の空間の暮らし方を考える」をテーマにし、生活者視点から未来を洞察し、イノベーション創造による新たな価値の創出に取り組みました。

事前に参加者が選んだ「徒歩5分圏」の地図から、そのエリアの魅力的な点や問題点などを洗い出し、さまざまなエリアの「気づき」を集約する作業を行うとともに、未来を「あるべき未来」「ありたい未来」「ありうる未来」の3つで考える「未来洞察」によって、自分たちの未来を考えていく方法が紹介されました。

アメリカのUBERなどの新たなビジネスモデルを例に、イノベーションにつながるサービスアイデアを念頭に置きながら、2025年の徒歩5分圏にはどんな“イシュー”があるのか、自分が住みたくなる10年後の街のあり方について考えていきました。

2014.11.18 - 20

Design Forum

BUSINESS DESIGN SERIES

現在、産業界の先端でご活躍中、または実績のある企業人をお招きしビジネス現場の実態や課題、その突破口、戦略、人材論などアクチュアルな講義をいただいています。若手の方にとっては、異業種交流を通して視野を広げられる場、また企画系・戦略系、経営者候補の方にとっても貴重なネットワークの場となっています。

Produced by 貫井孝／京都大学デザイン学 リーディング大学院 特任教授　元シャープ(株) 常務執行役員

日本発のグローバルビューティーカンパニーへ
～(株)資生堂の経営改革～

ビジネスデザインシリーズ　Vol.14

2017年12月21日
株式会社資生堂執行役員常務／研究開発本部長　島谷庸一氏

化粧品市場で世界5位の売上を誇る資生堂。かつて売上の主流だった専門店での販売からドラッグストアなどの量販店やネットストアへと市場が変化しています。そのなかで、日本発のグローバルビューティーカンパニーとしての同社の取り組みをうかがいました。

1872年に調剤薬局として創業した資生堂は、いまから100年前に化粧品部門が独立し研究所を設立した歴史を有します。化粧品専門店でお客様一人ひとりにカウンセリングをして商品をすすめる美容部員の存在が資生堂を成長させてきましたが、近年はお客さま自身が商品をセレクトして、宣伝方法もテレビをはじめとするマスプロモーションからデジタルメディアやSNSなどにシフトする時代になりました。また国内では小規模の化粧品会社の参入が相次ぎ競争が激化、シェアは1979年の26%から20%を切り、低下傾向にありました。

そこで2014年に「世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニーへ」というビジョンのもと、事業基盤の再構築を実施。マーケティングとR&Dへの投資を強化することでブランドを強くしていく方針へと転換しました。同時に、海外の決裁権を高めてグローバルマトリクス体制に移行し、プレステージファーストを掲げてスキンケア、メーキャップ、フレグランスへの集中投資を行うなどの改革を進めました。

創業以来蓄積されてきた研究開発がこれらの事業を支え、現在は国内のみならず海外の研究開発拠点と連携、国や地域にあった商品開発を行うとともに、デジタルビューティーデバイス分野にも進出。世界の動きを見据えた研究開発を続けています。

三菱ケミカルホールディングス、世界に向けて新たな発進
～三菱系3社統合により始動した日本最大の化学メーカー;三菱ケミカル誕生の狙いとは～

Vol.13　ビジネスデザインシリーズ

2017年10月19日
株式会社三菱ケミカルホールディングス代表執行役社長　越智 仁氏

2017年4月、三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンが合併して、日本最大の化学メーカーとなった三菱ケミカルホールディングス(MCHC)。世界的に業界の再編が進むなかで、生き残るためには何が必要なのでしょうか。今後の取り組みについてお聞きしました。

MCHCは前身の三菱化成工業と三菱油化が統合した1994年以降M&Aを進めて事業を拡大してきました。現在日本国内には、MCHCのほかに住友化学や三井化学、旭化成などの石油化学や産業ガスなどなど多くのメーカーがあり、それぞれ独自の力を持っていますが、どんどん海外勢に追われているのが実情です。

また、欧米と日本の主要化学メーカーの状況を比較すると、欧米では汎用商品の分野での撤退や縮小が進み、機能性商品ではM&Aによって事業を拡大強化する傾向にある一方で、日本ではそのまま継続している傾向にあります。日本の企業は強さをどうやって持つか。いろんなところで連携していかないとこれからの競争には耐えられないでしょう。

グーグルに代表されるように、サービス主導の新たな事業モデルが生まれ、ビジネスモデルが変わっています。業界や業種を超えた新事業創造の動きが活発になっているなかで、いかに他業種と手を握れるか、バーチャルとリアルを組み合わせられるかが重要です。

今までのように材料を提供するだけでなく、ソリューションを含めた提案が求められます。そして外部人材の登用を含め適切な人材を確保し、クリエイティブな職場環境の実現も欠かせません。さまざまな改革をしながら、時代の変化に対応してく必要があるでしょう。

BUSINESS DESIGN SERIES

これまでの講演

講師の所属・役職は講演当時のものです

Vol.14　2017年12月21日
日本発のグローバルビューティーカンパニーへ
～(株)資生堂の経営改革～
島谷　庸一氏
株式会社 資生堂
執行役員常務　研究開発本部長

Vol.13　2017年10月19日
三菱ケミカルホールディングス、世界に向けて新たな発進
～三菱系3社統合により始動した日本最大の化学メーカー;三菱ケミカル誕生の狙いとは～
越　智仁氏
株式会社三菱ケミカルホールディングス
代表執行役社長

Vol.12　2017年7月28日
夢みる力が「気」をつくる
唐池　恒二氏
九州旅客鉄道株式会社
代表取締役会長

Vol.11　2017年3月29日
グローバルプロジェクトを成功に導く仕事術、組織、人材とは
今川　吉郎氏
元・宇宙航空研究開発機構JAXA
特任参与/有人プロジェクト独立評価チーム長

Vol.10　2016年11月7日
競争優位に導く企業力の源泉
山西　健一郎氏
三菱電機株式会社
取締役会長

Vol.09　2016年6月30日
2030年を展望する
～求められる四次元企業への転身～
嶋本　正氏
株式会社野村総合研究所
取締役会長

Vol.08　2016年3月28日
水と生きる『Suntory』、お客様に感動していただける商品造りを目指して
～世界最高峰のビールを追い求め続けるものづくり現場からの発信～
横山　恵一氏
サントリービジネスエキスパート株式会社
執行役員SCM本部　原料部長

Vol.07　2015年12月14日
QoLの実現に向けたパナソニックの挑戦
－サービスソリューション、ビジネスモデルの変革を通じての取り組み－
竹川　禎信氏
パナソニック株式会社
エコソリューションズ社専務

Vol.06　2015年10月5日
海外グローバル拠点構築、オペレーションの実態
—海外赴任28年間で体得したこと
菅野　信行氏
株式会社ビジネスコンサルティングプロモート　顧問
元シャープ株式会社　専務取締役　中国本部長

Vol.05　2015年7月1日
—東証主催企業価値向上表彰大賞受賞—　**企業価値向上の取り組みとヘルスケア事業戦略について**
宮田　喜一郎氏
オムロン株式会社
執行役員常務　CTO兼技術・知財本部長

Vol.04　2015年3月25日
イノベーションに向けてチームで響きあう研究開発
～将来に向けた新たな価値創造を目指して～
牧村　実氏
川崎重工業株式会社
常務取締役　技術開発本部長

Vol.03　2014年12月19日
ファッションからエレクトロニクス・航空・宇宙まで、化学から生まれた先端素材が世の中を変える
出口　雄吉氏
東レ株式会社
専務取締役　経営企画室長

Vol.02　2014年10月23日
ユビキタス社会の要　端末ディスプレーの世界展開はいかにして成しえたか
—開発、事業化、グローバルビジネスを振り返る—
村松　哲郎氏
大阪大学産業科学研究所　特任教授
元シャープ株式会社　執行役員・本部長

Vol.01　2014年8月1日
エレクトロニクス製造業の成り立ち、課題、そしてその再興に向けて
貫井　孝氏
京都大学デザイン学ユニット　特任教授
シャープ株式会社　元常務執行役員

POLICY DESIGN SERIES

毎回、国の中枢で政策立案する方々を招いて、いま話題の政策テーマの立案の背景、プロセス、目指すべきところ等についてご講演いただき、行政に携わる方々と参加者を交えてディスカッションを行い、現場レベルでの課題の抽出や今後の活動について意見交換を行っています。

Produced by　木村千恵子／京都大学デザイン学 リーディング大学院 特任教授
協力：塩瀬隆之(京都大学総合博物館准教授)

特別編　2016年4月12日
IoTの未来を構想する
桑津　浩太郎氏
株式会社野村総合研究所
ICT・メディア産業コンサルティング・部長

Vol.02　2015年12月8日
我が国のサイバーセキュリティ戦略
谷脇　康彦氏
内閣サイバーセキュリティセンター
副センター長／内閣審議官

Vol.01　2015年3月20日
デザイン思考活用に関する政策研究セミナー
藤澤　崇彦氏
経済産業省商務情報政策局
クリエイティブ産業課課長補佐・デザイン政策室室長補佐

社会の実問題を解決する産官の実践力と、学生の創造力や専門性が交わることで、
実施者と参加者の「相互学習の場」が生まれています。

「京都大学サマーデザインスクール」は2011年の東日本大震災を機に開始され、今回、7回目を迎えました。京都大学の枠を越えて産業界や自治体から、様々な分野の専門家や学生が集まる大きなイベントに成長しています。参加者は取り組みたいテーマを選択し、テーマ毎に異なる手法でアイデアの創出に取り組みます。テーマを提供する実施者とテーマに挑戦する参加者の比率が一対一に近く、他に例のない相互学習の場がこれまでに生まれています。

第1回からのべ1500名以上が参加、昨年から連続してミラノ工科大学よりテーマが提案され、英語オンリーのテーマが2件、英語で参加できるテーマ6件、また「デザインイノベーションコンソーシアム」を中心に、企業や自治体からのテーマ提案が12件となり、国際的な産学連携の場となりました。

1,2日目は2会場に分かれてテーマごとに課題に取り組み、会場を出てフィールドに調査に行くグループや、ブレストでアイデア出しを行うグループ、アイデアをスケッチするグループ、プロトタイピングでアイデアを形にするグループなど多様なアプローチが見られました。3日目の午後はポスター形式によるプレゼンテーションが行われ、熱い議論が交わされました。プレゼンテーション後には3日間のワークを振り返るリフレクションや、表彰式が行なわれ、サマーデザインスクールは盛会のうちに幕を閉じました。

産官が持つ社会の実問題や実践力と、学生の創造力や専門性が交わることで、実施者と参加者の「相互学習の場」が生まれています。

2017年9月13日(水)～15日(金)

note

2017年9月13日(水)～15日(金)

総参加人数	275名
参加者	124名
実施者	82名
その他協力者・見学者	69名
23テーマ	

2017　23件の実施テーマ

グリーンの数字はコンソーシアム会員提案テーマ

01	展示物のないミュージアムのデザイン　―ノーベル賞級の難解な基礎理論を展示する手法のメタデザイン―	京都大学総合博物館
02	未来の人生最後の1年をデザインする	NTT
03	D.E.Y.：エレクトロニクス製品を個人がつくる未来のサービス	三菱電機
04	『駅の雨漏り』対策のイノベーション	野村総合研究所、堀場製作所
05	Rendezvous gardens　～見る庭園から遊ぶ庭園へ～	京都大学学術情報メディアセンター
06	不便の効用を活用させる無人島	京都大学デザイン学ユニット
07	データによる京都発見!?　～地域課題の解決と新たなサービス・ビジネス創出を目指して～	京都市
08	未来の京都ステイ	mct
09	センシング技術による母子健康の未来 Future of material and child health through sensing technology	京都大学大学院情報学研究科
10	DESIGN AND BEAUTY	ミラノ工科大学(Politecnico di Milano)
11	アイスブレイク技法としての自己開示のデザイン	京都大学大学院情報学研究科
12	「社会感情的能力」を高めて「実践に生かす」仕掛け作り	京都大学大学院教育学研究科
13	「見上げたくなる空」をデザインする	博報堂
14	Communicate Your Culture beyond Untranslatable Words	京都大学大学院情報学研究科
15	京都でのユニバーサルデザインを考える	京都市立芸術大学美術研究科
16	「学ぶ」と「働く」をつなぐ場のデザイン	パワープレイス
17	“自然に学ぶものづくり”から、「暮らしの快適」をデザインする	積水インテグレーテッドリサーチ
18	「KYOTO 3017」　～これから1000年残したい京都の姿～	電通
19	“生まれ変わり”で街を改革する	博報堂
20	落下するモノをデザインする	京都大学大学院工学研究科
21	法則を学ぶ：黄金比は優れたおもちゃのデザインを与えるか?	京都大学大学院工学研究科
22	京都の2050年 食のライフスタイルを考える	日本総合研究所
23	未来の高齢者の「楽しい!」をデザインする	三菱電機

Fellow Salon

フェロー制度　正会員A対象

デザインイノベーションコンソーシアムでは、デザインイノベーション拠点(京都市・下京区)において、京都大学デザイン学の教員・研究員とともに産学官連携活動に携わっていただくためのフェロー制度を設けています。正会員Aは、デザインイノベーション拠点フェロー*1名を推薦できます。フェローには拠点に入出可能な入館証をお渡しし、拠点において京都大学デザインスクールとともに活動いただけます。

活動例

- 京都大学デザイン学の教員研究員との産学官連携活動
- デザイン学共通科目の視聴
- デザインフォーラム等の各種イベントへの企画参加
  問題発見・解決型学習(FBL/PBL)などの
- 実習や研究活動の成果発表会への参加
- その他拠点を活用した新たな活動の運営企画

＊デザインスクールプログラム担当者の教員の推薦と
デザイン学ユニット教授会での承認が必要となります。

2016年10月スタート・毎月開催

デザインイノベーションコンソーシアムでは各企業から派遣された拠点フェロー10名が中心となり京大デザインスクール教員と共に「フェローサロン」を開催中です。

フェローの所属企業は、制御・健康医療機器、電機、通信、建築・まちづくり、コンサルティング、シンクタンクなど多領域に渡ります。

社会課題の捉え方や、ビジネス課題として認識する領域、課題の対象やソリューションメソッドは、企業が所属する業界によって異なっています。

フェローサロンでは、「優れたアイデアを生み出すためには、優れた課題設定が必要である」という仮説を立て、ソリューションを提供する飛躍的アイデアを生み出すデザイン手法を抽出し、言語化して、再現性を見出すことを主題として議論を重ねています。

会員企業の皆様には所属企業に幅広い知見を持ち帰りイノベーション推進の中心となる人材育成を目指し、フェロー制度を活用されるよう、お勧めします。

In-House Training

• 社内教育プログラム •

革新的な製品やサービスを創出するために、デザイン思考などさまざまなデザイン手法が注目され、ビジネスの現場に取り入れられつつあります。企業内で多くの社員がデザインの素養を共通言語として身につけることで、日常の社内会議も、より創造的になることが期待されます。

このプログラムでは、会員企業のニーズに合わせてプログラムをカスタマイズし、京大デザインスクールの教員を中心とする講師陣が企業内で研修を実施します。まずはデザインの基礎的な知識やスキルについて広く底上げしたい、ユーザ観察の方法を実践的に学びたい、自社の事業課題をテーマにワークをやってみたいといったニーズにお応えします。より多くの社員が受講する研修として実施することで、社内でのデザインへの取り組みの裾野を広げ、イノベーションを次々に創出できる組織風土へと変革します。

2017年度実施例

A社（デザインの基礎）
B社（エスノグラフィー、カスタマージャーニーマップ）
C社（シナリオプランニング、ファシリテーション）
ほか

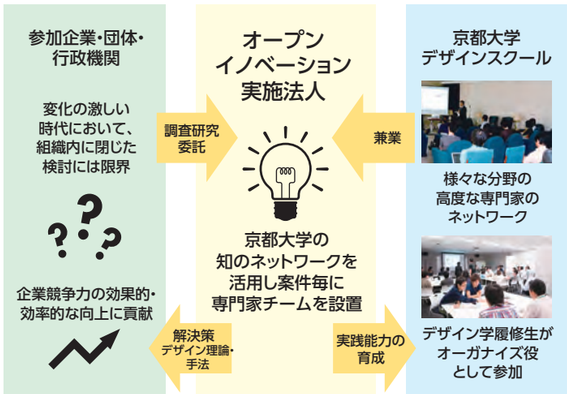
Open Innovation

• オープンイノベーション •

市場のグローバル化や顧客ニーズの多様化が進み、ますます競争が激化する現代において、企業が短期間で新たな価値を創出するため、組織の外部に技術や知見を求めるオープンイノベーションはもはや常識です。

このプログラムでは、会員企業が抱える課題に対して、企業と京都大学デザインスクールが協働し、学際的なアプローチにより生まれたアイデアを組み合わせることで革新的で新しい価値を創り出します。あらかじめ提示された研究課題を大学の特定の専門家とともに推進する従来の共同研究とは異なり、京都大学をはじめとするさまざまな分野の高度な専門家の知のネットワークを最大限に活用し、企業が抱える課題に対して最適な専門家をフレキシブルに選定することが特長です。案件によっては柔軟な発想をする学生も交えて、依頼者とともにディスカッションやワークショップを行い、課題の解決策をデザインします。

企業にとっては、これまでに接点のなかった分野の専門家や、多様な組織・個人などと協働する機会が得られ、自組織内にはない新しい視点から課題の解決策を探索できます。



2017年度実施例

近未来の建築空間・建設現場のイノベーションデザイン
(株式会社竹中工務店)

将来の高齢者向けサービスのデザイン(パナソニック株式会社)
ほか

Programs Starting 2018

他にはない、デザインイノベーションコンソーシアムならではの新しいプログラムがスタートします。
異分野を知ることから始まる「デザインレクチャー」、
体験することで理解を深める「フィールド訪問」をご紹介します。

Coming soon !

Design Lecture

デザインレクチャー

～ 予測不可能な世界を生き抜くための
企画・デザインの発想を学ぶ ～

京都大学デザインスクールで実際に行われている講義を中心に、企業向けに再編したレクチャーシリーズを開催します。予測不可能な時代（VUCA*）と言われる現在、異質なナレッジ、真の課題発見、解決策のデザイン力が必要とされています。そのためには、異分野の知見を学び、それぞれの分野で培われたデザイン理論・手法を理解し、その礎を築くことが大切です。本プログラムは、京都大学デザインスクールの教員が、各分野のデザイン理論・手法を説く集中シリーズです。

*VUCA: Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）

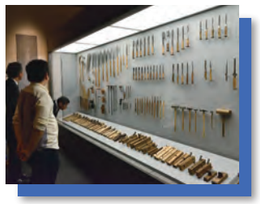
point

- ☑ それぞれの専門分野における問題の捉え方や解決策のデザイン方法がわかります。
- ☑ 自らの分野・業界の発想や問題の解決方法は限定的であり、バイアスがあると気付きます。
- ☑ どの分野のメンバーでプロジェクトチームを構成すれば、真の問題発見や望ましい解決策のデザインが可能となるか、計画できるようになります。

Coming soon !

Site Visit

フィールド訪問



会員企業や古くから息づいている老舗など、ソリューション開発やデザイン提供を行っているフィールドを訪問し、「デザインの本質」を体験する場を、本年度より新事業として実施します。

2017年度役員・推進委員

所属・役職は委嘱当時のものです。
（敬称略）

《理事》

会　長	山西 健一郎	三菱電機株式会社	取締役会長
副会長	守倉 正博	京都大学	京都大学大学院情報学研究科　通信情報システム専攻　教授
理　事	岩井 良行	パナソニック株式会社	執行役員　エコソリューションズ社　副社長
	川添 雄彦	日本電信電話株式会社	サービスイノベーション総合研究所　所長
	黒橋 禎夫	京都大学	京都大学大学院情報学研究科　知能情報学専攻 教授
	椹木 哲夫	京都大学	京都大学大学院工学研究科　機械理工学専攻　教授
	田中 健一	三菱電機株式会社	役員技監
	恒川 哲也	東レ株式会社	常務取締役　研究本部長　基礎研究センター所長
	牧 紀男	京都大学	京都大学防災研究所　都市防災計画分野　教授
	松原 厚	京都大学	京都大学大学院工学研究科　マイクロエンジニアリング専攻　教授
	三浦 智康	株式会社野村総合研究所	理事
	宮田 喜一郎	オムロン株式会社	代表取締役執行役員専務　CTO兼技術・知財本部長
	山本 和彦	森ビル都市企画株式会社	代表取締役社長
財務担当理事	川上 浩司	京都大学	京都大学デザイン学ユニット　特定教授
監　事	徳賀 芳弘	京都大学	京都大学経営管理大学院　教授
顧　問	大竹 伸一	西日本電信電話株式会社	相談役
	門内 輝行	大阪芸術大学、京都大学	大阪芸術大学芸術学部建築学科　教授、京都大学　名誉教授

《推進委員》

委員長	十河　卓司	京都大学	京都大学デザイン学ユニット　特定准教授
副委員長	木村　千恵子	京都大学	京都大学デザイン学ユニット　特任教授
副委員長	畑中　哲夫	株式会社竹中工務店	大阪本店　設計部　設計第2部門　部長
委員	梶本　一夫	パナソニック株式会社	イノベーション推進部門　全社CTO室　主幹
	川島　克也	株式会社日建設計	代表取締役副社長
	小森　雅晴	京都大学	京都大学大学院工学研究科　機械理工学専攻　教授
	椹木　哲夫	京都大学	京都大学大学院工学研究科　機械理工学専攻　教授
	塩瀬　隆之	京都大学	京都大学総合博物館　准教授
	白井　博志	株式会社博報堂	執行役員関西支社長
	中澤　篤志	京都大学	京都大学大学院情報学研究科　知能情報学専攻　准教授
	貫井　孝	京都大学	京都大学デザイン学ユニット　特任教授
	野川　真司	西日本電信電話株式会社	技術革新部　技術部門　技術渉外担当　担当課長
	平位　隆史	三菱電機株式会社	先端技術総合研究所　知的財産センター長
	藤嶋　誠	DMG森精機株式会社	専務執行役員
	牧　紀男	京都大学	京都大学防災研究所　都市防災計画分野　教授
	松井　啓之	京都大学	京都大学経営管理大学院　教授
	三浦　智康	株式会社野村総合研究所	理事
	宮田　喜一郎	オムロン株式会社	代表取締役執行役員専務　CTO兼技術・知財本部長
	山内　裕	京都大学	京都大学経営管理大学院　准教授

● 正会員A 31・正会員B 35・特別会員 4 ▶ 70企業団体 ●

正会員A

株式会社内田洋行
大阪ガス株式会社
オムロン株式会社
京都大学　デザイン学リーディング大学院
京都大学　情報学研究科社会情報学専攻
京都リサーチパーク株式会社
サントリーMONOZUKURIエキスパート株式会社
株式会社島津製作所
株式会社積水インテグレーテッドリサーチ
ソニー株式会社
ダイキン工業株式会社
大日本印刷株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店
田辺三菱製薬株式会社
DMG森精機株式会社
株式会社電通テック
東レ株式会社
西日本電信電話株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社日建設計
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社日本総合研究所
日本電信電話株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社博報堂
パナソニック株式会社
日立化成株式会社
三菱電機株式会社
ヤマハ発動機株式会社
横河電機株式会社

正会員B

株式会社NTTデータセキスイシステムズ
株式会社mct
株式会社エンプラス
株式会社沖縄教育出版
鹿島建設株式会社
川崎重工業株式会社
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構
京セラ株式会社　中央研究所
公益財団法人京都高度技術研究所
株式会社サクラクレパス
JFEスチール株式会社
シャープ株式会社
住友重機械工業株式会社
住友電気工業株式会社
株式会社セック
大成建設株式会社
株式会社丹青社
株式会社電通
株式会社東芝
ニチコン株式会社
日本電気株式会社
日本ハムシステムソリューションズ株式会社
株式会社ハイシンク創研
株式会社不二越
株式会社フジタ
株式会社堀場製作所
マルホ株式会社
三井物産株式会社
村田機械株式会社
株式会社村田製作所　コンポーネント事業本部
森ビル都市企画株式会社
株式会社UACJ
株式会社横井製作所
ローツェ株式会社
株式会社ワオ・コーポレーション

特別会員

京都府
京都市
京都商工会議所
独立行政法人情報処理推進機構

新会員
2018年3月現在